

【令和元年度】第7期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価シート

保険者名	第7期介護保険事業計画に記載の内容				R元年度（年度末実績）		
	区分	現状と課題	第7期における具体的な取組	目標 (事業内容、指標等)	実施内容	自己評価	課題と対応策
鹿追町	①自立支援・介護予防・重度化防止	住み慣れた地域で暮らし続けていくうえで必要なサービスを利用しやすくするために相談機能を充実させ、もし認知症になっても地域で暮らしていけるように、早期発見・対応の仕組みづくりや、家族・介護者の支援等ケア体制の推進を図ります。また、必要な医療・介護サービスが継続的・一体的に受けられるよう、医療と介護の連携を推進するとともに、安心して日常生活を送るための生活支援サービスの充実、また緊急時・災害時には迅速かつ効率的な支援を提供できるよう行政区や関係機関と連携したサポート体制の充実に努めます。	①相談機能の充実	相談機能の充実	地域包括支援センターでの各種相談対応（随時）	◎	相談援助の必要な対象者に対する対応を行うことができています。
	①自立支援・介護予防・重度化防止	同上	②認知症ケア体制の整備	認知症カフェの開催 認知症初期集中支援 地域ケア会議の開催	認知症カフェの開催（月1回） 認知症初期集中支援（1件） 地域ケア会議の開催（1件）	○	地域ケア会議については、個別の会議が中心となっており、推進会議の開催に向け取り組みを展開していく。
	①自立支援・介護予防・重度化防止	同上	③医療と介護の連携強化	医療・介護の職種間の連携強化及び情報共有	病院・サービス事業所とのケース会議（月1回） 在宅医療連携推進会議の開催	○	地域の専門職の連携強化や情報共有ツールの検討をすすめる。個別事例においては引き続き定例で開催しているケース会議にて検討を行い、重度化防止に努めていく。
	①自立支援・介護予防・重度化防止	同上	④安心して日常生活を送るための支援（多様な生活支援サービス等の整備）	「生活支援コーディネーター」などを通じた支援（多様な生活支援や社会参加のニーズに応えられる地域づくりを目指す）	生活支援体制整備事業の協議体の設置 各単位老人会への出前講座の開催	△	地域の高齢者を対象とする出前講座を開催。各地区の生活課題は把握しているが、役場福祉課と連携しながら取り組みを強化していく。
	①自立支援・介護予防・重度化防止	同上	⑤緊急時・災害時の見守り体制の整備	要援護台帳を整備し、各機関との情報共有 防災委員、民生委員等と共同で知識の普及や避難訓練等を行う	要援護者台帳の更新、情報共有は未実施	△	要援護体制の充実化に向け、システム導入や運用方法の検討を行っていく。
	①自立支援・介護予防・重度化防止	同上	⑥サービス提供の基盤整備	在宅サービス、施設サービスのサービス量の確保 ケアマネジャー等の資質向上のため、研修会や連絡会議等を通じて活動を支援	病院・サービス事業所とのケース会議（月1回）	○	地域における専門職の連携強化のため、在宅医療介護連携推進会議の開催、地域ケア会議の機能強化、研修会等の充実化がより一層必要である。
	①自立支援・介護予防・重度化防止	すべての住民があらゆる世代において、高齢化が進む町の現状と向き合い、「共生」「共助」の意識のもとに、それぞれの生活の質を高めるために活用できる社会資源や有効な情報の相互提供・共有を進め、効率的かつ効果的な地域の支援・見守りネットワークの推進を図ります。 また、認知症への理解を進める活動や、福祉や暮らしに役立つ制度などを学ぶ機会をつくり、様々な地域課題に対し、みんなで考え、みんなで取り組んでいく地域づくりを進めます	①情報提供・共有の推進	介護サービスや社会資源等のパンフレットの作成	認知症ケアパスと社会資源ガイドブックが一体化したパンフレットの作成	◎	パンフレットを作成し、全戸配布を行った。
	①自立支援・介護予防・重度化防止	同上	②身近な地域で支え合う体制づくり	サポートボランティア制度の推進 安否確認、緊急通報システムによる見守り体制の充実化	サポートボランティア制度の普及 緊急通報システムの設置（40台）	○	サポートボランティア登録数は横ばい。現在は行政機関や社会福祉法人でのボランティアが対象だが、生活支援ボランティアなど、個別支援につなげていくことができる仕組みづくりが必要。

保険者名	第7期介護保険事業計画に記載の内容				R元年度（年度末実績）		
	区分	現状と課題	第7期における具体的な取組	目標 （事業内容、指標等）	実施内容	自己評価	課題と対応策
	①自立支援・介護予防・重度化防止	同上	③認知症理解の推進	認知症ケアバス作成、認知症サポーター養成講座等による認知症の普及啓発	認知症ケアバスと社会資源ガイドブックが一体化したパンフレットの作成 介護者家族交流会の開催 認知症サポーター養成講座の開催	○	地域住民の支援も含めた取り組みを強化するため、事業の推進を図る。
	①自立支援・介護予防・重度化防止	同上	④教育・研修の機会の充実と介護人材の確保	介護助手制度事業の推進 健康・福祉教育の実施	各老人会等における健康教育の実施	○	令和2年度からは健康や生きがいづくり等の様々な講座を提案し、各老人会が自分で選択できるような体制で事業を実施する。
	①自立支援・介護予防・重度化防止	住民同士が関わり合い、つながり合うための集いの場や交流する場づくりを進めます。そのような場を起点として、高齢者が地域の中で健康を維持しながら生活を楽しみ、また自らの豊富な経験と知識を活かして積極的に社会参加することで、地域の中で生きがいを感じながら充実した生活を送ることのできるまちづくりを目指します。 また、高齢者一人ひとりが健康でいきいきと暮らしていくことができるよう、生活習慣病や加齢・疾病による機能低下をできるだけ防ぎ、早期発見や状態改善、重度化の予防を図る認知症予防・介護予防施策を推進し、できる限り要介護状態にならないための健康づくりや介護予防事業の取組みを推進します。	①お互いかかり合い、つながり合うまちづくり	サロンなどの集いの場づくりの支援（運営に主体的に参画することでの社会貢献活動の推進）	令和元年度は集いの場づくりに着手することができなかった。	×	自主的な活動をしている集いの場の確認を行う。
	①自立支援・介護予防・重度化防止	同上	②自分らしく輝き活躍できるまちづくり	老人クラブ活動や生涯学習の機会の充実、就労やボランティア活動などによる生きがいづくり	老人クラブに対する支援 老人会での介護保険講話（11か所） 就労や、ボランティアなどの生きがいづくり	○	老人会活動の充実化を図るため、これまでと違う取り組みとして介護保険サービス事業所と老人会を回って講話などを実施した。令和2年度からは、各老人会の選択に基づく取り組みを推進する。
	①自立支援・介護予防・重度化防止	同上	③認知症予防の推進	早期に相談や治療へとつながるよう認知症についての正しい理解の普及	老人会での講話 広報誌等での周知 ケアバスの配布	○	早期診断・早期治療へのつなげられるよう事業を進めていく。
	①自立支援・介護予防・重度化防止	同上	④介護予防の推進と多様なサービスの提供	介護予防把握事業の実施 生きがい活動支援通所事業 （H30年度）25人/月（H31年度）25人/月 （H32年度）25人/月 健康教室など、介護予防のための運動の機会の提供 シルバー体操教室の実施 （H30年度）36回/年（H31年度）36回/年 （H32年度）36回/年	生きがい活動支援通所事業の実施 （利用人数：23人/月） シルバー体操事業の実施 （実施回数：30回/年）	○	シルバー体操教室の体制については、リハビリ専門職が介入し、サービスの充実化に向けた取り組みを行った。生きがい活動支援通所事業の利用者はほぼ横ばい。より重度化防止に向けたサービス提供が可能となるよう体制を整備していく。